

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年7月27日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.33】

大物党员 坂入氏はJR総連内革命的ケルン建設を訴え！

JR総連と革マル派がこれほど激しく争奪戦を繰り広げる渦中の坂入氏とは、どんな人物なのか。すでに、革マル派が「古参党员」と呼ぶ坂入 (=南雲)氏は、「JR労研中央事務局長」で「九州労大量脱退事件」の首謀者であること、また、同派機関紙「解放」(2000年6月26日1625号)で、「『動労型労働運動の伝統を甦らせよ』との大論文を掲載していることを検証した(No.12)。坂入 (=南雲氏)は、この論文で次のように訴えている。

6月4-5日、JR総連の定期大会が開かれ、執行部人事が一新された。(中略)産業報国会と化した「連合」の内部にあってなお、政府の戦争準備に反対してたたかう組合であろうとしている。(中略)あらたに若返った体制(注:小田委員長-山下書記長体制)のもとに、JR労働運動を再生しようとする意気ごみを、今大会の議論の中に、われわれは感じる。21世紀のJR総連の運動をつくり出すために、「古き革袋を破り新しい革袋に新しい酒を入れるのだ」という熱い意欲をわれわれは感じるのだ。この新しい酒とは、ほかでもない。40数年にわたる「動労型労働運動」の戦闘的伝統を今日的にうけつぐということであり労働組合組織を執行部がひき回すのではなく、それとは逆に、職場における闘いを基礎にして、労働組合組織を強化することである。(中略)われわれは、組合内に左翼フラクションをつくり出すだけでなく、さらにその内部に革命的フラクションをつくり出すのである。(中略)JR戦線のたたかう仲間たちは、この論理を体得するだけではなく、あらゆる産別において戦闘的な闘いを担っている仲間たちがたえず主体化している革命的マルクス主義を、学習しなければならない。(中略)JR総連組織内に革命的ケルンをうち固め、それをよりいっそう強化することなしには、葛西-大塚体制がかけてくるであろう今後の反動攻撃にまっこうから立ち向かうことは、決してできないのである。(中略)新しい執行部のもとに、若々しい体制を整えたJR総連は、あらゆる弾圧をはねのけ、ネオ「民主化同盟」を尖兵とした組織破壊攻撃に抗して、彼ら三組合の下部組合員をJR総連傘下諸労組の組合員として獲得し、JR総連を拡大強化し、過去13年間より以上の闘いを切り拓く可能性がうみだされたといつてよいからである。

坂入氏は、JR総連の新体制発足をベタ褒めし、職場の闘いを基礎に組織を強化し、JR総連内に「革命的ケルン」をうち固めることなどを訴えている。この主張は、現在、東労組や北海道労組の執行部が盛んに訴える「スト権論議」などの方向性と酷似している。

坂入氏は「自然と人間」講師団として全国のJR総連構成組織をオルグ！

JR総連の「尋ね人」なるピラでは、坂入氏について「在職中は、JR総連・JR東労組組合員として、また役員を担い組合員の利益を代表して組合活動を寝食を忘れておこなっていました」「私たちJR総連にとって、かけがえのない先輩指導者なのです」と記載したほか、前述「告発状」によれば、2000年3月末でJR東日本を退職した後は、「自然と人間」事務局員として仕事をしていたという。「自然と人間」とは、1996年7月に創刊したJR総連発行の月刊誌(2002年7月より「自然と人間社」発行)だが、坂入氏は、退職以前から事務局講師団を務め、JR総連傘下の単組の地方本部で「職場生産点の闘い」などをテーマに学習会を行っていた。坂入氏はただのOBなどではない。JR総連内に革命的フラクションづくりを目指す革マル派の大物党员が、実際に職場の指導を行っていたのだ！

検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！はJR連合ホムページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>